

但し、おびただしい量の放射能物質の付着したゼオライトを回収し、膨大な量のそれらをどう保管、処理するのか

その処理をどうするのか、その指針は発表されていない。

田圃や畑の除染作業は無理だ、養分豊富な表土が削り取ってしまったら、農地としての価値はなくなるから植物に吸収させたら良いだろうとの発想からヒマワリを植える運動が始まったが、全く効果はないと判明して急速に萎んでしまった。

八方塞がりの状態の中、朗報があった。用水路や池などに生息している水草「マツバイ」(別名ウシノケ)が、この草は非常に繁殖力が旺盛で地下茎でどんどん繁殖する。このマツバイが土壤中の放射性セシウムを効率よく吸収する性質があると愛媛大・大学院の榊原教授が研究成果を発表した。

マツバイはカヤツリグサ科の多年草で、カドミウムや亜鉛など重金属をよく吸収する性質があり、ここに着目して研究をはじめ、郡山市にある福島県農業総合センターの協力でマツバイが放射性セシウムをどの程度吸収するかの測定を繰り返していた。



( 駝鳥がさまよう故郷 )

その結果、1キ口あたり 3800 ベクレルの放射性セシウムを含むセンター内の水田にマツバイを植え付けたところ、短期間で最大で放射性セシウムを 1017 ベクレルを吸収した、とその研究成果を発表した。

マツバイの良さは吸収するのが早いので、効率よく除染出来る。その後のマツバイの処分、効率の良いマツバイの増殖、植え付け、刈り取り等 指導に力を注いでもらいたい。写真でしか見てないが、田圃や畑が大草原になってしまった故郷の近況に慄然とした。

このマツバイが汚染された田畑の救世主になってくれるのか、研究成果を待ちたい。

ただ、現在のところ除染作業が可能だという方法は人海戦術が唯一でしかない。

